

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190201939		
法人名	株式会社ツクイ		
事業所名	ツクイ札幌太平グループホーム(のどか)		
所在地	札幌市北区太平7条6丁目6-14		
自己評価作成日	令和5年1月13日	評価結果市町村受理日	令和5年3月13日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和5年1月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人一人の個性があり、その人の尊厳を大切に。お客様への言葉使いは相手が不快にならない様、気を付けている。
往診にて月2回看護師は週1回、医療との連携にて健康管理を実施し、臨時往診もすぐに対応してもらえることで、お客様やスタッフも安心できる環境にある。
認知症対応型通所介護を併設し、1日3名と限定的ではありますが地域の方の認知症ケアの受け皿として運営しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR百合が原駅から徒歩数分の住宅地にある2階建て2ユニットのグループホームである。周辺には大小の公園があり、良好な環境である。建物内はキッチンや事務所から居間・食堂が見やすい位置にあり、居間には畳スペースが隣接している。事務所の面積を十分に確保し、エレベーターや集中暖房、車いす用のトイレなどの設備も整っている。運営法人が国内で多数の介護施設を運営しており、職員の教育体制、各種マニュアル、運営システムが整備されている。職員同士のコミュニケーションも良好である。利用者が自分のできることを継続できるように支援し、食事の手伝いや季節の装飾づくり、レクリエーションへの参加など、活発に活動している。ケアマネジメントの面では、生活歴シートやアセスメントシートにより利用者の思いや意向を適切に把握するとともに、介護計画見直し時の評価表や検討会議の記録も見やすく整理されている。看取りに関しては、定期的に家族に意思確認をするなど、意向に沿った対応をしている。職員に看取りの経験者も多く、定期的に勉強会も行っている。外出支援の面では、日常的な散歩の他に年間を通じて計画的に外出行事を設定し、新川の桜並木、百合が原公園などに出かけて楽しんでいる。職員が笑顔で丁寧に利用者へ接し、楽しく安心して過ごすことができるグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(のどか)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全体の理念に基づいて各階で細かく実践へつなげる為の課題を話し合い、スローガンを掲げながら実践している	事業所独自の理念の中で「地域と共に笑顔のある生活」と掲げ、地域密着型の意義を踏まえている。理念を玄関、事務所に掲示し、パンフレットにも掲載している。会議等で理念を共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で交流は出来ていない。	感染症の影響で、現在は散歩の際に住民と挨拶を交わす程度となっている。流行前は楽器演奏のボランティアの来訪を受けたり、町内の夏祭りに利用者が参加していた。収束後の再開を目指している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍で地域支援には至っていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍にて書面会議になっているが、情報共有し意見書を提出して頂き、サービスへ反映させるよう努めています。	地域包括支援センター職員、町内会長、民生委員、家族がメンバーとなり、2カ月毎に書面で会議を開催している。虐待や身体拘束をテーマに取り上げることがあったが、年間を通したテーマの設定は少ない。議事録を家族に送付している。	報告事項以外に、年間を通して計画的に会議のテーマを設定し、テーマに関する意見交換の場となることを期待している。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの担当の方へは情報を書面にて提出し、意見書をもらっている	運営推進会議で地域包括支援センター職員に情報提供を受けている。市や区とは、何かあればいつでも相談できる関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な研修を実施している。また事例を用いてどのように取り組めば拘束をしないで済むのかを話し合い、理解を深めている。	身体拘束に関する委員会を2か月ごとに開催している。年2回の勉強会では禁止の対象となる具体的な行為も確認している。ユニットから玄関へのドアは日中も施錠しているが、利用者が外に出たい場合は職員が同行し、閉塞感を感じさせないようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な研修を実施し、事例検討等理解しやすいよう工夫している。		

ツクイ札幌太平洋グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(のどか)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会社内にて研修を実施し、必要性があれば検討するよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や変更時はお客様へ内容の説明を行い、理解が得られているか確認を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	計画書の更新時や電話連絡した時等、ご家族様へ要望の聞き取りを行い、お客様へは直接聞き取りを実施し反映させている。また会社のフリーダイヤルや各区役所の連絡先を重要事項説明書に記載し、説明をしている。	家族の来訪時や電話をした際、介護計画説明時に意見を聞き、得られた意見を申し送りノートやタブレット端末に記録し、共有している。毎月、写真入りのお便り「日々邁進」を作成し、家族に利用者の様子を伝えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や面談等、職員の意見を発現する場を設けている。	毎月、全体会議とユニットごとの会議があり、活発に意見交換している。必要に応じて管理者と職員が個別面談を行っている。職員は、食材や備品の発注、年間行事、室内装飾などの業務を分担し運営に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が個々の状況を把握する事は難しいが、会社全体として給与の見直しや過重労働にならない仕組み等整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修を年間通じて計画的に行い、任意の研修も職員にも呼び掛けている。また管理者の判断で職員に研修を受ける時間を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍にて活動する機会が減っているが、社内ではリモート研修にて全国の事業所と意見交換を実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(のどか)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	積極的に話しかけ、会話の中で困りごとや不安な事等聞き取れる工夫をしている。他者との会話にも耳を傾け本人の思いを逃さない様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の情報や初回訪問時の会話や電話でのやり取りを含め、入居前に数回行い困りごとや不安がないか確認しながら、スムーズな入居に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今の一番の要望を聞き取るが、本人の課題なのか家族の課題なのか、見極めながらカンファレンスで話し合い、ほかの課題も一緒に考えている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活する上での家事等、本人が出来ることを一緒に行ったり、お任せしてお願いする事もある。本人の意欲を引き出せるように言葉をかけている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人が必要な物や困っている事を家族様へ伝え、相談したり、話し合ったりしている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの状況を勘案して、面会や外出には柔軟に対応している。	2名ほどの利用者に知人が来訪し、玄関やエントランスで会っている。知人から電話が来た際は取り次いでいる。行事で馴染みの公園などに出かけている。現在は行きたい場所への買い物に行けていないが、感染症収束後は再開する予定である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席替えをしたり、レクリエーションの場面で関わりを注意深く見て、お世話好きの方は他者へ支援することがある為、見守りなが支え合えるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(のどか)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院後の経過を聞き取り、状態に応じて対応出来る事をご家族へ伝え、相談、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話の中で本人の希望を聞き取る様に努めている。また聞き取り困難な場合は、職員同士で本人に成り代わって皆で検討している。	3分の2ほどの利用者は言葉で思いや意向を表出でき、難しい場合も問いかけの反応などから把握している。生活歴や趣味・嗜好を記載する書式を作成し、情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時に生活歴や今までの暮らし方や生活環境等、ご家族に書いてもらい、職員が把握できる様努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、一人一人を観察し変化を情報共有して把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを行い、現状の把握と家族や医師の意見を反映させ計画を作成している。	介護計画を3か月ごとに見直ししている。見直し時の評価表、担当者会議の記録が分かりやすく作成されている。タブレットの介護記録には、ケアプランに関する内容を「介入内容記録」として記載しており、プラン番号を追加することも検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	常に職員間では情報を共有し、カンファレンスにて見直しを行っている。タブレット入力にて既読の確認が出来るようになった		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	決めつけないサービス作りを心がけ、柔軟な支援が出来る様心掛けている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍にて地域資源の活用が出来ていないが、直接会う事は出来ないが、ご近所付き合いの架け橋にはなっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は往診にて対応しており、ご家族の希望も効きながら適切な医療が受けれる様、主治医と連携を取り、内科以外も受診対応を行い、ご家族にも協力を得ている。	利用者は協力医療機関による月2回の往診を受けている。内科以外の通院は家族対応だが、必要時は事業所で送迎している。受診内容をタブレット上に詳しく記録している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(のどか)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の医療連携にて決まった看護師が来ており身体状態や近況の変化を伝え、適切な支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は病院への情報を適切に伝え、主治医からも入院先へ情報提供してもらっている。また、退院が出来る時期等現状の状況等も病院と連絡を取って把握し、関係性を作っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の方針は契約時に説明し、さらに状態変化の段階から急変時等の判断や今後の方針等、ご家族も含めて話し合いを行っている。	利用開始時に「重度化した場合の対応に係る指針」を説明し、署名捺印を得ている。終末期の対応について定期的に家族に意思確認をしている。2年前に1名の看取りを行い、職員に経験者が多い。看取りに関する勉強会を毎年行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な研修にて実施している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震、水害の災害時を想定し避難訓練を実施している。また、地域の協力が得られるよう、町内会の連絡網を作成してもらっている。	年2回、昼夜を想定した避難訓練を行っている。感染症収束後に消防や住民の参加も得て訓練を行う予定である。職員の救急救命訓練は前回実施時から期間が空いている。災害時に必要な水や食料等の備蓄品を用意している。	消防署や法人が提携する関係先の協力を得ながら、各職員が3年に1回程度、救急救命訓練を受講できるよう計画的な取り組みを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お客様の表情、意思、気持ちを伺い、不適切な発言の無いよう事例研修を通じて個人尊重の意思向上に努めている。	毎月接遇マナーの勉強会を実施し、食事や入浴の場面での言葉かけの内容を具体的に振り返る機会をつくり、人格の尊重の意識向上に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定出来る方には本人に伺う。意思表示が難しい方へは表情からくみ取る様努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設内の取り組みに必ず参加するのではなく、ご本人の調子や気分に合わせて暮らしの支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	同じ洋服が好みの方にも、違う洋服を勧めたり、訪問理美容の利用等、ご本人の希望に合った身だしなみが出来る様支援している。		

ツクイ札幌太平グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(のどか)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや後かたづけも、一緒に行い食事が楽しめる様盛り付け方も工夫している。	会社本部でメニューを作成し、レトルトの状態配送されており、野菜切りや盛り付け、片付けを一緒に行っている。もなかやワッフルなどの手作りおやつ行事も楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	肉、魚、野菜をバランスよく提供している。水分が摂れていない人には好みの飲み物や色々な飲み物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアが不十分な場合、お手伝いをし仕上げ磨きを行っている。治療が必要な方は訪問歯科と連携して対応しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の時間を確認しながら、トイレへ誘導しなるべくトイレで排泄出来る様努めている。また、寝たきりの方でも定時に確認し早めに交換できる様努めている。	半数はトイレでの排泄が自立しており、他の利用者も経時的な記録によって排泄パターンを把握し、さりげないトイレ誘導を行っている。夜間は排泄用品をベッド上で交換したり、ポータブルトイレを使用する場合もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量を把握し、牛乳やヨーグルトを交互に提供するなど予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	声をかけ断られた場合は無理強いせず、時間をずらしたり、別日に気持ち良く入浴出来る様支援している。	午前を中心に、週2回は入浴できるように調整している。入浴を嫌がる場合は、別日にし無理強いしないようにしている。冬至にはゆず湯にするなど、楽しく入浴できる工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の安眠へ繋げるよう、日中はお手伝いや運動等行いながら、個別にて昼寝もしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更等も含め情報を共有している。また薬の効き目や変化等もご本人にも伺い、医師や看護師へ伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の好みの家事がある為、それぞれに合った役割やレクリエーション、外出等の楽しみを支援している。		

ツクイ札幌太平グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(のどか)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	庭での野菜の収穫や近くの公園、車内ではあるが桜を見に行く、イルミネーションを見に行く等、本人の希望に沿って支援している。	夏季は毎日近所を散歩し、外気に触れることを大切にしている。感染予防をしながらドライブで、もみじ狩りや花見など年5回は外出レクを予定している。居間から中庭に出て、ベンチに座ってゆっくり過ごすことも出来るようになっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理はご家族様が行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話が使える事は話しているが、本人からの希望はなく、手紙やハガキが来た時は本人へ渡している。読めない方へは読み上げている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理整頓と清潔に努め動線の確保を行っている。また、季節を感じられるよう一緒に装飾活動を行っている。	明るく広々とした居間に食卓テーブルとソファがありゆったりと座って過ごせるようになっている。居間の一部に小上がりの和室があり、洗濯物をたたんだりくつろげる空間もある。壁の装飾を、利用者と職員と一緒に手作りをして掲示し季節感を感じられるよう工夫している。無料Wi-Fiを整備し希望者は利用できるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人の性格や好みを考慮し、時には席替えをしたり、場所を誘導したりしている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのあるものや写真等等に包まれご本人が落ち着ける様工夫している。	防炎のカーテン、クローゼットが備え付けであり、好みのベッドを利用している。据え置きタイプの手すりを用意し安全に配慮している。家族の写真や趣味の物を飾り居心地よく過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの位置が分かる様に廊下から見える様に大きな文字にしている。また危険なことがないか予測を立てながら環境作りを行っている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190201939		
法人名	株式会社ツクイ		
事業所名	ツクイ札幌太平グループホーム(そよぐ)		
所在地	札幌市北区太平7条6丁目6-14		
自己評価作成日	令和5年1月13日	評価結果市町村受理日	令和5年3月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人一人の個性があり、その人の尊厳を大切に。お客様への言葉使いは相手が不快にならない様、気を付けている。
往診にて月2回看護師は週1回、医療との連携にて健康管理を実施し、臨時往診もすぐに対応してもらえることで、お客様やスタッフも安心できる環境にある。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和5年1月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(そよぐ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全体の理念に基づいて各階で細かく実践へつなげる為の課題を話し合い、スローガンを掲げながら実践している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で交流は出来ていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍で地域支援には至っていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍にて運営推進会議が書面になる事が多く報告と意見書にて意見をもらう事にとどまっています、話し合いまでは出来ていない。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当職員へ介護保険サービスについての質問等、連絡を行っている。また、地域包括支援センターの担当の方へは情報を書面にて提出し、意見書ももらっている		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な研修を実施している。また事例を用いてどの様に取り組めば拘束をしないで済むのかを話し合い、理解を深めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な研修を実施し、事例検討等理解しやすいよう工夫している。		

ツクイ札幌太平グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(そよぐ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修の機会はあるが、全員ではない為職員によっては差がある。必要性がある場合は活用できる様支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	担当者は説明をしたのち、不安や疑問点がないか聞き直し、理解を得られている事を確認している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	計画書の更新時や電話連絡した時等、ご家族様へ要望の聞き取りを行い、お客様へは直接聞き取りを実施し反映させている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案を聞く機会を設けているが、すべてが反映されているわけではない		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者が個々の状況を把握する事は難しいが、会社全体として給与の見直しや過重労働にならない仕組み等整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修を年間通じて計画的に行い、任意の研修も職員にも呼び掛けている。また管理者の判断で職員に研修を受ける時間を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍にて活動する機会が減っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(そよぐ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と面談の時間を作り、困っている事ややりたい事、生活について耳を傾け、少しでも安心できる様心がけている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前に面談の時間を作り、家族が困っていた事、これからの要望等、聞き取りを実施して関係性作りにも努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今の一番の要望を聞き取るが、本人の課題なのか家族の課題なのか、見極めながらカンファレンスで話し合い、ほかの課題も一緒に考えている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の生活の場として寄り添い、共に助け合える関係として暮らしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常にご家族と連絡を取り状況報告をしながら、課題についても助言を求めたり、情報を得る事で本人への支援に繋がっている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	住んでいた場所や人間関係の話等、馴染みの人の話では楽しそうにしている。コロナ禍でも工夫しながら面会ができる様に努めている。(リモート面会や窓越し、直接会う時間の制限等)		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	楽しく団らんでできる環境作りとして、席替えを行ったり、一緒にできるレクリエーションを実施している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(そよぐ)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院後の経過を聞き取り、状態に応じて対応出来る事をご家族へ伝え、相談、支援に努めている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の会話の中で本人の希望を聞き取る様に努めている。また聞き取り困難な場合は、職員同士で本人に成り代わって皆で検討している。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時に生活歴や今までの暮らし方や生活環境等、ご家族に書いてもらい、職員が把握できる様努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、一人一人を観察し変化を情報共有して把握に努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを行い、現状の把握と家族や医師の意見を反映させ計画を作成している			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	常に職員間では情報を共有し、カンファレンスにて見直しを行っている。タブレット入力にて既読の確認が出来るようになった。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	決めつけないサービス作りを心がけ、柔軟な支援が出来る様心掛けている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍にて地域資源の活用が出来ていないが、直接会う事は出来ないが、ご近所付き合いの架け橋にはなっている。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は往診にて対応しており、ご家族の希望も効きながら適切な医療が受けられる様、主治医と連携を取り、内科以外も受診対応を行い、ご家族にも協力を得ている。			

ツクイ札幌太平洋グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(そよぐ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の医療連携にて決まった看護師が来ており身体状態や近況の変化を伝え、適切な支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は病院への情報を適切に伝え、主治医からも入院先へ情報提供してもらっている。また、退院が出来る時期等現状の状況等も病院と連絡を取って把握し、関係性を作っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の方針は契約時に説明し、さらに状態変化の段階から急変時等の判断や今後の方針等、ご家族も含めて話し合いを行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な研修にて実施している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震、水害の災害時を想定し避難訓練を実施している。また、地域の協力が得られるよう、町内会の連絡網を作成してもらっている		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お客様の表情、意思、気持ちを伺い、不適切な発言の無いよう事例研修を通じて個人尊重の意思向上に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定出来る方には本人に伺う。意思表示が難しい方へは表情からくみ取る様努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設内の取り組みに必ず参加するのではなく、ご本人の調子や気分に合わせて暮らしの支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好きな服やスキンケア用品の継続、訪問理美容の利用等ご本人の希望に合った身だしなみ出来る様支援している。		

ツクイ札幌太平グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(そよぐ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いの好みを職員間で共有している。行事の時好きな物を提供(お寿司やケーキ)し喜んで頂いている。食器拭きはおお客様数名で毎日行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	肉、魚、野菜をバランスよく提供している。水分が摂れていない人には好みの飲み物や色々な飲み物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアが不十分な場合、お手伝いをし仕上げ磨きを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の時間を確認しながら、トイレへ誘導しなるべくトイレで排泄出来る様努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方には少しでも水分を多く摂って頂ける様に提供したり、朝食時にヨーグルトや牛乳を提供し、予防に努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	声をかけ断られた場合は無理強いせず、時間をずらしたり、別日に気持ち良く入浴出来る様支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れない方には温かい飲み物を提供したり、足を温める等安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更等も含め情報を共有している。また薬の効き目や変化等もご本人にも伺い、医師や看護師へ伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人に合った楽しみやお手伝いを毎日行っている。外の空気を吸いに行く、庭に行く等、気分転換も行っている。		

ツクイ札幌太平洋グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(そよぐ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	歩行運動や気分転換等目的は様々で一人一人に合わせて取り組んでいる。公園まで散歩に行く等戸外に行っている。花見やイルミネーションを見に行くなど、希望に合わせて外出している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理はご家族様が行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	誕生日や年賀状等ご家族様からの手紙はご本人へお渡しし、読み上げている。携帯電話の使用も可能にし自由に話すことが出来ている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔を保ち、事故に繋がらないよう配慮した空間心がけている。またお客様と一緒に季節の装飾を作り飾っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人の性格や好みを考慮し、時には席替えをしたり、場所を誘導したりしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのあるものや写真等等に包まれご本人が落ち着ける様工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	トイレの位置が分かる様に廊下から見える様に大きな文字にしている。また危険なことがないか予測を立てながら環境作りを行っている。		

目標達成計画

事業所名 ツクイ札幌太平グループホーム

作成日：令和 5年 3月 2日

市町村受理日：令和 5年 3月 13日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	報告事項以外に年間を通して計画的に会議の場にテーマを設定し、テーマに関する意見交換の場になることを期待したい。	運営推進会議においてテーマを設けて、意見交換や勉強会などを実施できる環境づくりをしていく。	報告以外にテーマを設けて、意見交換や勉強ができる会議体を実施していきます。	1年
2	35	消防署や法人が提携する関係先の協力を得ながら各職員が3年に1回程度、救急救命訓練を受講できるように計画的な取り組みをしたい。	防災協会の実施している研修に参加 年1回WEBを活用しての講習動画の視聴	防災協会のホームページより実技の講習日を確認しシフト調整の上、参加していく。 全体会議等で救急救命の動画を視聴し手順を再確認する。	1年
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。